

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく3

国立市立国立第七小学校

平成27年4月10日 NO.3 (203)

新1年生をインター方面に送って行く時のことでした・・・

モンタ博士「あ！あんな所にフキがあるよ。」

新1年生 「あれあれ？フキを取ってどうするのですか。」

モンタ博士「まあ、見ていてごらん。このフキの葉っぱを取って、
て
手をはかるくグーにして、フキの葉っぱをのせて、

『エイ！』とやると・・・『ポン！』と・・・

いい音がするだろう。」

花ちゃん 「おもしろそうですね。私もチャレンジしてみます。」

モンタ博士「そうだね。虫は動いておもしろいけど、植物は自分からアクションを起こす
ことが必要なんだね。このようにいろいろな植物で遊ぶことを『草花あそび』
というんだよ。この『国立ててく』でも、少しずつ紹介していくね。」

花ちゃん 「うれしいな。わたし、楽しみにしています。」

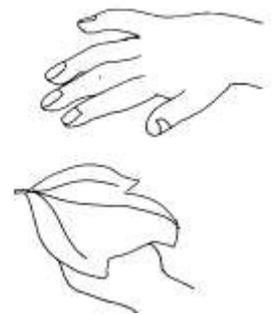
オー君 「ところで、モンタ博士！フキといえば、食べられるんですよね。」

モンタ博士「そうだよ。まず、地面近くにあったフキノトウが、あたたかくなると、右の
ように伸びるんだ。どんどん背をのばしたものがフキノトウだよ。こいつは、
てんぷらがうまいね。それから・・・。」

オー君 「食べ物なら、おいらにまかせて。まず、フキは、キク科といって、食べられ
るものが多いんだ。まず、フキの茎のすじをとって、竹の子やあぶらあげと
いっしょににるといいんだ。それから、フキを細かく刻んで味噌と合わせて、
『フキ味噌』もいいね。あたたかいご飯にぴったし。それから、しょうゆと砂糖
でこく味つけしたのが『きゃらぶき』で、これも超うまいね。」

花ちゃん 「パチパチパチ。すごーい。オー君はくわしいんですね。感心しちゃった。」

オー君 「春の野山は、いろいろとあるさ。みんなで春の山菜をさがしにいこう！」



クズやカラムシの
ように丸くて、うす
い葉っぱがいいよ。



フキ (キク科) *Petasites japonicus*

フキの語源は拭(ふ)く

フキの語源についていろいろと調べていると、ある文献に目がとまった。語源は拭くということ。拭くとは、ぬぐうという意味でもある。昔、トイレットペーパーのなかった時代、人はどのようにして始末したのだろうか。時代や土地によって様々であるが、昔は、つるつるの石をトイレに置いていたそうだ。使用前は右、使用後は左とか。使用後は川で洗いリサイクル。またある所では、やや太めの縄をぶら下げていたそうだ。何度も使用していると、つやつやになって使い心地がよかったと文献にもある。そして、最後に登場するのがフキ。フキの葉っぱをたくさん取ってきては、トイレで陰乾しし、何枚も積み重ねておき、それを使用したそうだ。そのようにして拭いていたので、『拭き』が『フキ』になったと…。そう言えば、フキの学名は、ペタシテス。『ぺたん』とやったからかなあと勝手に思う日々。